

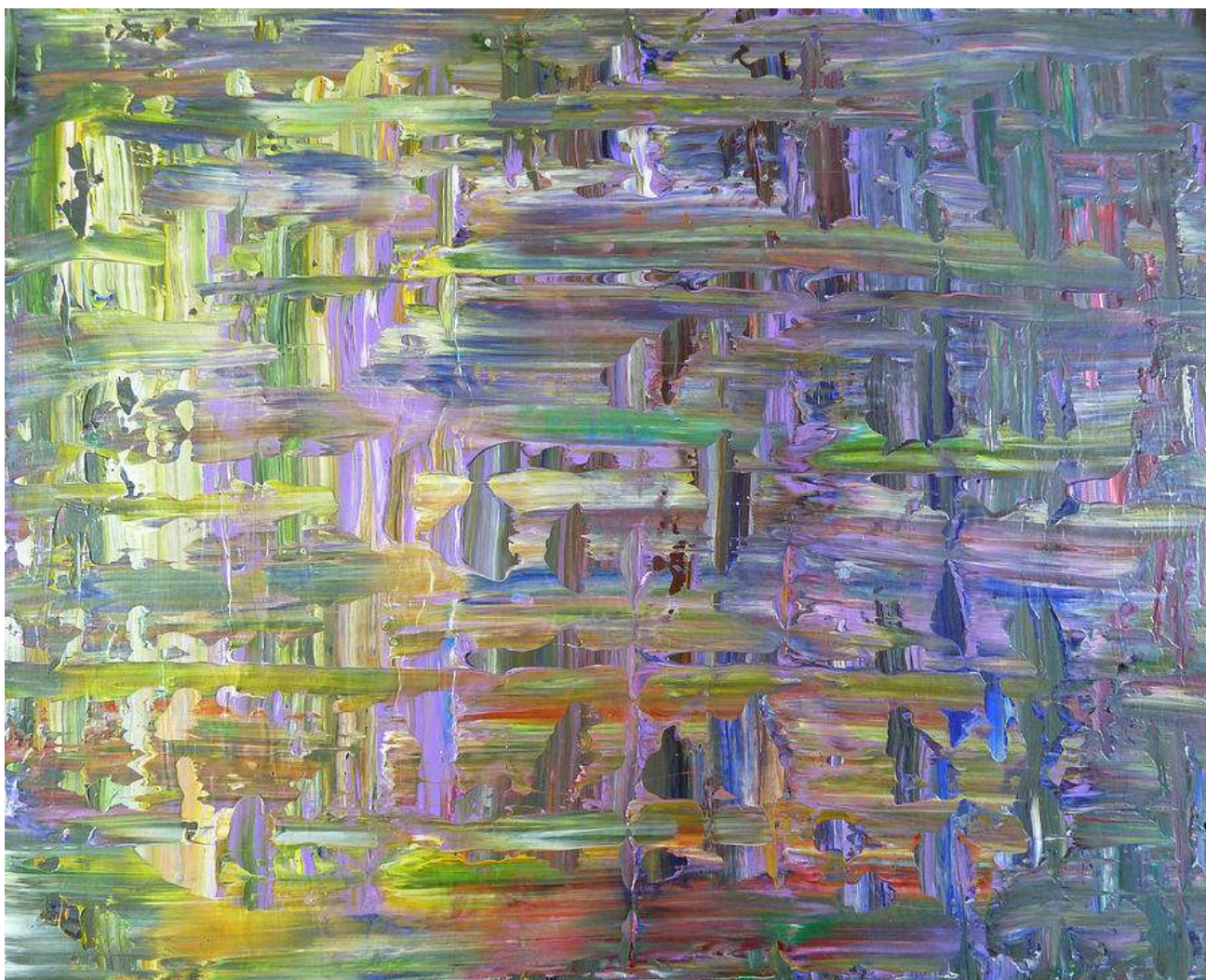
---

# 発達理論の学び舎

Back Number: Vol 155

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」

---



---

## 目次

- 3081. 北欧旅行を終えての二日目の朝
- 3082. TOEFL試験前日と当日の過ごし方
- 3083. 秋を感じさせるフローニンゲン
- 3084. 遅くなる日の出
- 3085. 「使命」:この世界への奉仕と永遠への扉
- 3086. 「天命」について
- 3087. 大宇宙と小宇宙への祈り
- 3088. 肌寒い秋の朝に
- 3089. 久しぶりの夢
- 3090. キャサリン・エルギン教授の書籍
- 3091. 内的感覚と心象イメージ
- 3092. 心身の大きな調整
- 3093. 関心を持ったリスニング
- 3094. 秋の到来を感じながら思うこと
- 3095. 景色からの支援:身体と精神
- 3096. 固有の発達特性・学習特性
- 3097. 変化の根源を捉え、変化を生み出す日記
- 3098. 忘却の河と無邪気な死の影
- 3099. 時の流れ:芸術教育と霊性教育
- 3100. 秋の朝に見た夢

---

### 3081. 北欧旅行を終えての二日目の朝

今朝もまた七時に起床した。北欧旅行で得られた感覚や体験をゆっくりと咀嚼しようとしているためか、普段と同じ時間に就寝しているにもかかわらず睡眠時間が長い。

昨夜は午後九時を過ぎてくると、脳を使うことの限界に迫っていることを感じた。旅から戻ってきてすぐに、少々探究活動と創造活動に力を入れ過ぎていたようだ。それは気付かぬ形で行われており、今日からは計画通りの活動を無理せず進めていくことにしたい。

昨日からTOEFL対策を本格的に始めた。今日もまたスピーキングセクションを中心に、それに付随する形でリスニングセクションの対策を行う。

昨夜集中力が落ちた状態でリスニングの問題を解いてみたところ、やはり集中して問題文を聞くのが難しかった。あえてコンディションの悪い状態で問題を解くという実験を試してみたところで、正解率としては極めて高かったのだが、ところどころ聞き逃している箇所があり、幾つかの問いには勘で答えているような箇所があった。

今日は午前中のうちにリスニングの問題を解くようにし、頭が冴えている状態でどこまで集中できるのかを計測したい。これによって、コンディションの良し悪しの二つの状況における集中力の差を把握することができる。

リスニングセクションはいかに集中して問題文を聞くかにかかっており、そうした集中力を維持促進する方法はやはりメモを取る事なのだと思う。昨夜の観察事象として、メモを取る手が止まった時に問題文を聞き逃すことが多かった。昨日は結果としてわずか一問しか間違えることがなかったが、そうした結果よりも、問題を解くプロセス上で見つかった課題を克服していく必要がある。

もう一つ、本日午前と夕方の二回に分けて取り組みたいのはスピーキングセクションの対策である。インターネット上にはTOEFL対策の優れた動画がいくつもあるが、それらを全て見ても仕方ないので、ある程度の量を見た後には、最も参考になる動画を選び、それらを繰り返し視聴していくのが良いだろう。

---

昨日見つけた動画は、スピーキングセクションの設問1と2の新しいタイプの問題に対応しているものであり、それを繰り返し視聴しようと思う。その際に、単に動画を視聴するのではなく、実際にその場で提示されている問題を解いてみるということを行う。しかもそれを繰り返し行うことが大切だ。形式に慣れるためには、数多くの問題を解くことも大事だが、同時に一つ一つの問題を深く解くということも大切になる。スピーキングの場合で言えば、ある問いに対して制限時間内で納得のいくスピーキングができるまで何度も同じ問いに回答することが有益だ。

今、「制限時間内で」と書いたが、必要な情報が全て盛り込まれていたら、制限時間内に発話の全てが完了していなくてもスコアに影響を与えることはない。それよりも重要なのは、話す内容の豊かさともとりであるため、逆に時間が余りすぎてしまう回答の方がスコアに影響を与える可能性が高い。

話す速度について焦る必要はなく、自然な速度で抑揚をつけながら発話をし、制限時間を超えても問題ないという認識で、話す内容を膨らませていくことが大切だ。特にそれは設問1と2において当てはまる。今日もまた設問1と2を中心にしたスピーキング対策を行いたい。フローニンゲン:2018/9/5(水)07:47

### 3082. TOEFL試験前日と当日の過ごし方

今日は晴天に恵まれるようだ。あいにく明日から数日間は断続的に雨が降るようであるから、今日の午後には行きつけのチーズ屋に立ち寄り、ナッツ類とチーズを購入しようと思う。

今朝は七時頃から目の前の通りの工事が静かに始まった。作業員の方たちの朝は早い。

書斎の窓から見える街路樹は、もう紅葉を始めており、夏の時期の青々とした色はそこにはない。これから秋が深まっていくのに応じて、葉の色は赤みを増していくだろう。その変化の過程を味わいたいと思う。

今朝方の日記でTOEFL対策の学習について書き留めていた。少し早いですが、来週土曜日の前日と当日の過ごし方についても簡単に書き留めておきたい。

---

今回は先月の半ばにGREを受験したのと同じ試験会場でTOEFLを受験する。アムステルダムのそのプロメトリックセンターは、テスト環境として申し分ない。収容人数も多くなく、他の受験者との間の仕切りもしっかりしているため、問題に集中しやすい環境が提供されている。

今回の試験も、前日は会場近くのホテルに宿泊することにした。ホテルに宿泊する当日は、午後まで自宅でTOEFL対策を普段と同じように行い、午後からホテルに向かう。試験の当日の朝は、ホテルに宿泊しているということもあって時間にゆとりがあるため、ホテルの自室で頭を慣らすためにスピーキングセクションの問題を何問か解こうと思う。できれば一連の問題セットを解き、試験に向けて万全の準備をそこでしておく。

実際の試験が始まったら、最初のリーディングセクションの時には支給される耳栓を付けておこうと思う。これまで耳栓を活用することはほとんどなく、リスニング用のヘッドフォンを耳に当てているだけであったが、これはあまり効果がない。それでもリーディングに関しては、普段からどんな環境でも書籍や論文を読むことを行っていたので周りの音はそれほど気にならない。とはいえ、今回のように重要な試験の問題文を読む際には、やはり最も集中できる状態を作ろうと思う。そのため、試験会場の席に案内され、スピーキング用のマイクテストを終えたら耳栓をつけようと思う。

リーディングセクションが無事に終われば、そこで短い小休憩を取る。一分ほど目を閉じて呼吸を落ち着かせてからリスニングのセクションに入っていく。ここで想定されることとして、リスニングセクションの後半の問題を解いている最中に、他の受験者がスピーキングセクションに入っている可能性があることだ。その際には、周りに音が溢れかえるため、その時こそ自分が今聞いている問題文に最大限集中するようにする。メモを取ることに集中することによって、集中力が持続するだろう。

昨夜は一日の最後の集中力が落ちている状態の中、あえてテレビをつけ、CNNを適度な音で流しながらリスニング問題に解答していった。意図的に騒音を作ることによって、本番で想定される騒音に左右されない形で力を発揮する良い訓練になったと思う。今日もリスニングの問題を解く際には同様のことを行いたい。フローニンゲン:2018/9/5(水)08:04

#### No.1299: The Early Morning

The sky in the early morning is cloudy.

---

It is colder than usual this morning. Groningen, 07:56, Tuesday, 10/9/2018

### 3083. 秋を感じさせるフローニンゲン

時刻は午後の一時半を迎えた。先ほど昼食を摂り、これから少し仮眠を取りたいと思う。

今日は起床した時に窓から見える景色が随分と秋らしくなっていることに気づいた。街路樹が紅葉を始め、秋の雰囲気を出し始めている。

今日は比較的暖かいが、明日からは気温が下がるようだ。これから仮眠を取った後に少しばかり作曲実践をし、その後に行きつけのチーズ屋に散歩がてら立ち寄ろうと思う。

秋が近づいてきたためか、時の流れがこれまでの季節よりもより緩やかに感じられる。時は絶えず私たちの内側に押し寄せてくるが、今の私は時の群像が緩やかに歩みを進めているのがわかる。静かな時の流れの中で、今日も自分の取り組みに従事していく。

作曲実践と内的感覚をデッサンすることが習慣になって以降、随分と自分の想像力の働かせ方が変容したように思う。これまでは内的感覚を言葉にすることだけを行っていたが、作曲とデッサンが表現手段に加わったことにより、これまで形にできなかったものを形にすることができるようになり、それが新たな感覚を生み出すことにつながっている。

様々な表現手段を用いて自己の感覚を表現することによって、内面世界がよりいっそう豊かなものになっていくのを実感する。これからはさらに作曲技術とデッサンの技術を高めていきたいと思う。心眼と魂眼で捉えられた感覚や心象イメージを自由自在に表現するための技術を高めていくことを日々の実践を通じて実現させていく。

今日は計画通りに午前中の段階でTOEFLの対策を十分に行った。リスニングセクションの問題を一セット解き、スピーキングセクションに関しては設問1と2で出題される様々なタイプの問題を繰り返し解いた。夕方にもう一度スピーキングの対策を行いたい。その時には設問の3と4の問題を何度も解くようにする。明日は設問の5と6を集中的に訓練し、同時に設問の1と2も念入りに対策を行う。設問の1と2の対策は試験当日まで毎日行い、3と4、5と6は一日置きに対策をしていく。またつい先

---

ほど、本番に読み上げられる音声と同じ声を用いられたリスニングセクションの模擬試験の問題を数多く紹介している一連の動画を見つけた。

今朝も一セットほど模擬試験を解いたように、明日から毎日一セットほどリスニングの模擬試験を解くようにする。これによって形式に随分と慣れるだろうし、問題で問われやすい箇所を把握することにもつながり、何よりメモを取る技術が高まるだろう。来週の土曜日まではTOEFLの試験対策に集中し、それに並行する形で探究活動と創造活動に従事したい。フローニンゲン:2018/9/5(水)

13:41

### No.1300: A Curtain of Zeal

I'll voraciously engage in my academic and creative work from now. It seems as if a curtain of zeal enveloped the window of my study. Groningen, 08:05, Tuesday, 10/9/2018

#### 3084. 遅くなる日の出

今朝は六時に起床し、六時半から一日の活動を本格的に開始した。起床してみると、辺りはまだ薄暗く、日の出の時間が随分と遅くなったのだと実感する。

太陽の動きを観察するだけでも季節の動きを実感することができる。そうした変化を皮膚感覚で捉えていくことの大切さ。季節が緩やかに変化していく過程を自分の皮膚感覚で捉えることを続けていくことによって、自分の内側の小さな変化に対してもより敏感になれる。

内側の差異への気づきが自己を深めていく。そのようなことを実感させてくれる季節になった。

どうやら今日は午前中から雨が降り、夜まで雨が降り続けるようだ。今は薄い雲が空を覆っており、それは雨雲のように見えないのだが、雨雲を呼び込みそうな雲ではある。今日も一日中、書斎の窓から見える景色を眺めながら、自分の取り組みに従事していくことになるだろう。

今日は昼食後に、協働執筆中の書籍に関するオンラインミーティングが一件ある。それまでの時間は主にTOEFL対策、読書、作曲実践に時間を充てたいと思う。まずは早朝に一曲ほど曲を作り、そ

---

の後にTOEFL対策に移行する。午前中はリスニング対策をし、夕方にスピーキング対策をしたいと思う。

午前中のリスニング対策の際には、昨日見つけたウェブサイトの動画を視聴しようと思う。このサイトは、本番と同じ声で読み上げられる一連の模擬試験を共有している。特にリスニングとスピーキングの模擬試験が充実しているため、リスニングに関してはこれから毎日一セット解くようにしたい。

スピーキングに関しては、まずは設問ごとの対策を十分に行い、来週の月曜日あたりからそれらの問題を解いていくようにする。午前中のリスニングの際に問題を解き終え、回答を確認したら、トランスクリプトを見ながらもう一度問題を聞き直すようにする。これによって聞き逃してしまった箇所や、問題で問われている箇所を確認することができる。昨日は予想以上に仕事に取り組むことになったため、スピーキングセクションの設問3と4の対策は今日行うことになった。引き続き、設問1と2の訓練もしつつ、3と4の対策をしっかり行うことを今日の学習計画としたい。

昨日は何一つ読書ができなかったこともあり、今日は少しでもいいので、シュタイナー教育に関する書籍を読んでいこうと思う。探究項目に関する知識も焦って拡張させていくのではなく、緩やかに徐々にそれを育てていくようにしたい。今日も緩やかに自分の取り組みを少しずつ前に進めていく。フローニンゲン:2018/9/6(木)06:58

#### No.1301: A March at Dawn

Clouds covering the sky in the early morning start to disappear now. The outside world is saturated with active energy. Groningen, 09:41, Tuesday, 10/9/2018

#### 3085. 「使命」:この世界への奉仕と永遠への扉

時刻は午前九時に近づきつつある。まだ雨が降り始めていないが、空一面にうっすらとした雲が見える。

先日スキポール空港からフローニンゲンに戻ってくる列車の車窓から、渡り鳥の群れが空を舞っている光景を見た。ちょうど今朝も同じような光景を書斎の窓から見た。これから鳥たちは暖かい地域に移動していくのかもしれない。



---

昨日は、本当に柔らかい秋の空が広がっていたことを思い出す。その時の私は、「ミルクコーヒーが広がるような空だ」と思っていたことを思い出す。今日はそうした空とは違う表情が見える。また今日は風が一切吹いていない。そこからふと、仮に人生が全く動いていないように思えても、私たちの人生は絶えずどこかに向かって動き続けているということに思いを馳せていた。

人生は本当に静かに、そして着実にあるべき場所に向かって流れていく。

来年の今頃は、私はこの世界のどこで何をしているのだろうか。そんなことを思う。

仮に自分の人生が私をアメリカにいざなえば、私はアメリカにいるだろう。また、仮に人生が私をスイスにいざなえば、スイスにいるだろう。どちらの国で生活をするようになったとしても、それはこの人生の導きである。その導きに従ってこれからも生きて行く。

今のところ来年の選択肢はアメリカかスイスに住むことである。現在の関心事項を深く探究する上ではそのどちらかの国が望ましい。仮にアメリカの大学院に進学することになったら、そこで博士課程まで進むかもしれない。博士課程の進学についてはとにかく慎重に検討をしたい。

少しでも疑義があれば、博士課程になど進学してはならない。四年か五年をかけて継続的に探究するに値するテーマを見つけ、博士論文を書くことの意義が明確になった時点で初めて博士課程に進学するようにする。仮にアメリカで博士号を取得したとしても、その後私はアメリカに留まることはないように思う。確かにアメリカの西海岸は気候的な意味では非常に住みやすかったが、文化的な意味においてはやはり欧州で生活することが自分には望ましいように思う。

来年アメリカの大学院に戻ることで、その後博士課程に進学することになれば、再び米国生活は長くなりそうだが、必ず欧州の地に戻ってきたいと思う。そしていつの日か、日本の地で生活することができればと思う。それは当分先のことになるだろうが、母国に戻る日がいつかやってくれば幸いだ。それも人生の流れが決めることだろう。

私の意思を超えたものが人生の流れを生み出し、それが私を導いていく。その導きに従ってこれからも生きて行く。これからどのような場所で生活を営むことになったとしても、私は自らの使命を全う

---

したいと思う。各人にはこの世界で果たす固有の役割が与えられており、私にもそうした役割があるはずだ。

今は徐々にその役割が明確なものになりつつある。「使命」という言葉をよくよく観察してみると、「命を使う」と解釈できることに気づいた。使命を果たすというのは、自らの生命力を使ってこの世界に奉仕していくことなのかもしれない。自らの生命を全て使い果たした後には、きっと永遠の世界が開けてくるにちがいない。逆に言えば、永遠の世界に参入するためには、自らの生命を使ってこの世界に奉仕し続けることが要件になるように思えてくる。私たちはこの世界に仕え、そして自らの生命を使う形で世界に奉仕するとき、永遠の世界への扉が開かれるのではないだろうか。フローニンゲン:2018/9/6(木)09:14

#### No.1302: An Inner Bee

Everybody has an inner bee that is very diligent. However, we have to help it to fulfill its role; such support is essential especially in this modern society. Groningen, 16:01, Tuesday, 10/9/2018

#### 3086. 「天命」について

目の前の街路樹に小鳥たちが集まってきた。ピョピョと元気よく鳴き声を発している。

先ほどバッハの四声のコラールに範を求めて一曲作った。以前に四声の曲の作り方に関する理論書を二、三回読んだのだが、結局今はなんとなく曲を作っている日々が続く。例えば、バッハの楽譜を眺め、そこに見出される構造的パターンを把握したら、そのパターンをいったん自分の内側に取り込むような意識を持ち、その後は、取り込まれたパターンをもとに感覚的に音を並べていくということが続いている。もちろん、最初に構造的パターンを把握したら終わりではなく、曲を作っている合間合間に何度も楽譜を眺めるようにしているのだが、結局のところ自分の作曲は感覚に依存する要素が非常に強い。それもそのはずで、私は正規の音楽教育を一度も受けたことがないからだ。

昨年から少しずつ作曲理論の解説書を読みようになっているが、そうした書物を読むよりも、やはり実際に曲を作る方が充実感があるため、ついつい理論書を読むことから離れてしまう。実践を何よりも

---

優先するというのは決して悪いことではなく、それはむしろ歓迎すべきことだろう。ただし、現在の私は強く自分の感覚や直観に依存して曲を作っていることを考えると、生み出される曲は現在の自分の感覚や直観を超えることがないということが見えてくる。自分の感覚や直観の枠組みを超えていくためにも、理論書を少しずつまた読むようにしたい。

北欧旅行から帰ってきて、相変わらずシベリウスの曲を聴き続けている。旅の最中はずっとシベリウスの曲を聴いていた。シベリウスのピアノ曲や協奏曲を中心に、それは私の旅の友となり、今もシベリウスの曲が書斎の中で鳴り続けている。街路樹にとまる小鳥たちの鳴き声とシベリウスの曲に囲まれた日々。

そういえば、シベリウスも鳥を愛していたことをふと思い出した。鳥の舞う姿や鳥の鳴き声には、楽想を生み出す恵みが含まれている。そのようなことを私も思う。

先ほど、「使命」という言葉について日記を書き留めていたように思う。その後すぐに、「天命」という言葉が想起された。それらの言葉は同義であるが、各々が持つニュアンスは若干異なり、もしかすると二つの言葉には重要な関係性があるように思えてくる。自己の意思を超越した存在を仮に天と呼ぶのであれば、天から必ず何からしらの促しがいつか私たちにもたらされる。その促しに基づいて私たちは人生の出発をする。それは本当の意味での出発だ。

そこから私たちの真の人生が始まり、私たちは自らの生命を活用する形でこの世に奉仕し始める。その奉仕を全て全うすることができたら、私たちは天に召されていく。

そのような流れがぼんやりと浮かび上がってきた。これは人生の発達プロセスの本質を表しているように思える。

天からの促し、出発、奉仕、天に召されていくこと。それら一連の流れの中に今の自分がいるということを感じることが出来る。

この先自分がこの世界のどこで何をして生活をしているのか定かではないが、仮にそうであったとしても、天命にまつわる一連の流れの中で生き続けていることだけは確かだろう。それが一人の人間が真にこの世界で生きることの意味なのだと思う。フローニンゲン:2018/9/6(木)09:30

---

### 3087. 大宇宙と小宇宙への祈り

時刻は夜の九時半に近づきつつある。夏の間はこの時間帯はまだ日が出ていたのだが、今はもう真っ暗となった。ここからも季節が秋に入ったことを知る。

今日は計画通りに諸々の仕事を進めることができた。午後から行われた、協働執筆中の書籍についてのオンラインミーティングも充実した形で終わり、明日に行われる別の協働プロジェクトに関するミーティングに向けた準備も先ほど終えることができた。

自分に与えられた役割の一つに、成人発達の領域において広く関与していくことが挙げられるのは間違いないであろうから、今このようにして自分にできる範囲のことを日々行っていることは、自分の役割を果たしていく道を確認に歩んでいることを意味するだろう。明日の午前中に行われるミーティングも今日のミーティングのように充実したものになることを望む。

今日は午後から小雨が降り始め、今は外の様子が見えないが、この瞬間には雨が止んでいるようだ。午後、雨が降り注ぐ景色を眺めながら、柔らかい羽根が宙を舞っているような心象イメージを持った。外は雨であるにもかかわらず、自分の内側にそのような心象イメージが現れたことは興味深い。おそらく、それほどまでに今日の仕事が充実していたのだろう。

確かに外側の世界は私たちの内面世界に多大な影響を与えるが、そうした影響に左右されない内面世界の強い充実感を日々感じられるようになってきている。充実感しかないという状態こそが、真に人間らしく生きていることの証なのかもしれない。

今朝方作曲実践を行っている最中に、作った曲を聴いていると、腸内に広がる小宇宙について想像が膨らんだ。腸内フローラというのはまさに腸内にある大きな生態系であり、それは小宇宙とみなすことができるだろう。腸内に潜む善玉菌・悪玉菌・日和見菌などの細菌の数は100兆から1000兆に及ぶらしく、それはこの宇宙に存在する星の数に匹敵するかもしれない。そうしたことを考えれば考えるほど、身体の中に小宇宙があることを認識することができる。このリアリティには、外面宇宙があり、身体という小宇宙があり、そして心という無限の広さを持つ宇宙が存在している。しかもそれらの宇宙は全てフラクタル構造を持っている点が共通していることは驚くべきことである。

---

なぜだかわからないが、ここ最近では夜就寝前のベッドの上で手のひらを天の方向に向け、宇宙とのつながりを感じるような動作を無意識的に行っている自分がある。身体の中に小宇宙が存在していることを強く認識してからは、天に手のひらを掲げた後、自分のお腹に手を当てて、小宇宙に調和をもたらすような言葉掛けを祈りのように捧げるようになっている。別の表現で言えば、私は気付かないうちに、外面宇宙と身体の中に潜む小宇宙に感謝の念を捧げてから眠りにつくようになっていたということである。これは一つの習慣となり、今日も明日もそうした感謝の祈りを捧げるだろう。フローニンゲン:2018/9/6(木)21:33

### 3088. 肌寒い秋の朝に

今朝は六時前に起床し、六時を少し過ぎた頃から一日の活動を開始した。まだ九月の一週目だが、今日のフローニンゲンは非常に肌寒い。最高気温は16度であり、最低気温は11度である。比較のために、先日訪れたストックホルムとヘルシンキの気温を確認してみると、今日はフローニンゲンの方が気温が低い。道理で寒さを感じるわけである。そうした寒さを和らげるために、早朝から温かいお茶を飲んでいる。

今日は午前中に雨が降るらしく、午後から天気が回復するようだ。季節の変わり目のこの頃は、雨が一日のどこかで降ることが多くなっているように思う。この傾向は来週もまた続きそうだ。

今日も基本的には昨日と同様の過ごし方をしていく。昨日は昼食後からオンラインミーティングがあったが、今日は午前中にそれがある。こちらの協働プロジェクトも順調に進んでいることを嬉しく思う。

昨夜の段階でミーティングに向けた準備を完了させたため、ミーティングまでの時間は作曲実践とTOEFL対策に時間を充てたい。作曲に関しては、まずは過去に作った曲を編集し、それを聴きながらデッサンをする。その後、今日はテレマンに範を求めて一曲作ろうと思う。作曲実践がひと段落したら、TOEFLのリスニングセクションの模擬試験を解く。

一日に34問の1セットを解くようにしているが、本番では17問ごとに区切りがあるため、それと同様に、17問解き終えたら一旦時間を空ける。ちょうど午前中に17問解き終えた頃にオンラインミーティングの時間になるのではないかと思う。

---

昨日34問ほど解いてみたところ、純粋なケアレスミスと完全に問題文を聞き逃しているがゆえに間違えてしまった問題の双方を確認することができた。おそらく本番でも問題文の細かな点を全て把握することは難しいことが予想されるため、何とかケアレスミスをなくし、間違える問題数を一、二問、ないし二、三問に留めたい。

ケアレスミスについて細かく見ていくと、そこにもパターンがあることが見えてきているため、今日はその点に注意して問題を解いていく。また、仮に問題文を聞き逃してしまったとしても、読み上げられるテーマの趣旨に照らし合わせて選択肢を絞り、勘で解答せざるをえない場合であっても、できるだけ正答率を高めるような工夫をしていく。

最後に、リスニングの問題文は比較的長いため、意識が問題文の外に向かないように、問題文に関心を持ち、その内容を楽しむような姿勢が必要だろう。思い起こしてみると、リスニングのセッションで高得点を取っている時は、問題文の内容に関心を持ちながら集中して聞いている傾向があるように思う。問題文に関心を持つ姿勢を養うことも今日からの対策では意識したい。フローニンゲン：2018/9/7(金)06:41

### 3089. 久しぶりの夢

北欧旅行からフローニンゲンに戻ってきて数日経つ。北欧旅行中も確かに夢を見ることがあったが、その記憶は非常に断片的なものであった。フローニンゲンに戻ってきてからもそうした傾向は続いていた。しかし、今日は比較的印象に残る夢を見ていた。

夢の中で私は、京都大学の敷地内の一つの建物の中で、入学試験を解いていた。その建物は古びた家屋のようであり、普段大学のサークルが使っているような建物だった。その建物は一階しかなく、一階の長机で数人の受験生と共に数学の問題を解いていた。一人の友人は、すでに京都大学の理学部を卒業しており、出題される問題を難なく解いているようだった。一方、私は幾分計算に苦戦しながら問題を解いていた。ある程度問題を解き終えた後、私はトイレ休憩に行こうとした。その旨を試験官を務めている学生に伝え、トイレに行った。

---

トイレから戻ってくると、試験官を務める学生が問題の出来について私に尋ねてきた。私は、幾つかの問題につまづいている旨を伝えた。すると、その学生は親切にも後ほど問題のヒントを与えてくれると述べた。

今受けている試験は非常に厳格なものであり、本来はそうしたヒントをもらうことなどできないはずなのだが、この試験が厳格なものであるというのも自分の早とちりかもしれない、と自分の考えを再度客観的に眺めるようにした。

席に戻り、再び数学の問題を解き始めた瞬間に、周りの景色が一変した。あるいは、問題を解いている私の頭の中の景色が変わったと述べた方が正確かもしれない。

最初に目に映ったのは、袴を着た男女が、弓道を行っている光景である。屋外で、一つ、ないし数個の的に向かって矢を射っている姿が目飛び込んできた。私はその姿を眺めながら、京都らしい雰囲気を持つ屋外を歩いていた。すると今度は、景色がまた一変し、断崖絶壁に自分が立っていた。

私は自分が立っている地面の小石を拾い、それを海に向かって投げている。投げた小石が海面に跳ね上がり、石が海面をスキップする遊びを少しばかり行っていた。しかし、断崖から海までは距離があるため、海面に平行する形で石を投げることはできず、投げた石は大抵そのまま海底に沈んでいった。何度か試みてみたもののうまくいかず、最後にもう一度挑戦した時に、足を滑らせそうになった。

危うく断崖から下に落ちるところだったが、無事だった。海に背を向け、来た道を帰ろうとしたところ、断崖の地形が変化し、私は断崖から滑り落ちてしまった。ところが、滑り落ちている最中に断崖を伝うようにして降りていくことができ、また滑り落ちたその先に洞穴のようなものがあったため、そこに避難することができた。その瞬間、夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私は体育館にいた。見るとそこは、中学校時代に使っていた体育館のようだった。どうやらこれからバスケの部活が始まるようだった。見ると、引退したはずの先輩たちの姿がそこにあっただ。さらには、学年で一番背が高かった野球部の友人もそこにいて、どうやら野球部を辞めて、バスケ部に入ろうとする意思があるようだった。

---

---

準備運動を行う前に、体育館の中を全員で何周かすることは恒例であったが、先輩たちはコート  
の半分をぐるぐる回り、手を抜いているようだった。私は先輩たちを無視し、同学年と後輩のメンバーと  
一緒に、いつものように体育館の中を何周か走った。その後、ゲーム形式の練習が始まり、随分と  
白熱した試合が展開することになった。そのような夢を今朝方見ている。今朝方見ている夢も色々  
と示唆に富む。夢が内包する意味については、今日もどこかのタイミングで考えを巡らせるかもしれ  
ない。フローニンゲン:2018/9/7(金)07:06

### 3090. キャサリン・エルギン教授の書籍

夕日がまるで喜びのダンスを踊っているかのようである。時刻は午後の六時を迎えた。今、ちょうど  
西日が書齋に差し込んでいて、書齋の中は暖かい。今日は一日を通して非常に肌寒かったため、  
西日の優しい温かさの恩恵が身に沁みる。空には依然として雨雲が残っているが、今はこのように  
して夕日の美しさを眺められるだけで満足だ。

ここ数日間は、火災報知器が誤作動を起こし、それが断続的に鳴るような事態に見舞われていた。  
いくつか手を打ってみたが、まだ完全に解決しておらず、数分に一回程度、ブープ音が鳴る状態  
が続いている。

もう今日は金曜日の終わりに差し掛かっており、明日明後日に問題が解決しなければ、月曜日に  
不動産屋に連絡をしたいと思う。過去二年間においても誤作動が発生することがあり、その際には  
リセットボタンを押せばすぐに問題が解決していた。しかし、今回はその策を打っても問題が解決せ  
ず、根本的に別の問題があるようだ。火災報知器の問題を解決するために午前中に一階まで降り  
て行った時、数日前に注文した書籍のうち、二冊が届けられていた。

どちらも共に、ハーバード大学教育大学院(HGSE)に所属する哲学者キャサリン・エルギン教授が  
執筆したものだ。エルギン教授は、日本でも翻訳書を通じて知られているネルソン・グッドマンに師  
事し、グッドマンと協働して論文や書籍を多数出版している。グッドマンとの共著である

“Reconceptions in Philosophy and Other Arts and Sciences (1988)”が本日届けられた。もう一冊は、  
エルギン教授の新著である“True Enough (2017)”という書籍だ。



---

エルギン教授は認識論と教育哲学を専門にしており、私にとってそれら二つの哲学分野は以前から関心を引くものであるため、それらの書籍を購入するに至った。より厳密には、芸術教育にせよ、霊性教育にせよ、それらのテーマを考える際に、どうしてもそれらの教育の価値を見直す必要があり、「価値を理解するとはどういうことなのか?」「価値はいかように認識されるのか?」ということが切っても切り離せない問題である。これまでの私はそうした問題にアプローチするのに苦戦を強いられていた。暗中模索の状態が続く中で出会ったのが、エルギン教授の一連の仕事であった。

エルギン教授は、私が敬意を払っているザカリー・スタイン博士が博士課程に在籍していた時の指導教官の一人であり、以前から名前は知っていたのだが、本格的に彼女の仕事を辿ることにしたのは今回が初めてである。

今月末から十月の初旬にかけてボストンを訪れる際に、HGSEで数名の教授と面会することになっており、エルギン教授とも一対一で面会をする機会を幸運にも得ることができた。また、私からのお願ひとして、エルギン教授が今学期に提供している「芸術理解」というタイトルのコースを聴講できることになった。これは非常に楽しみである。

先ほど“True Enough (2017)”の第一賞を読み進めてみたところ、私の関心に合致する事柄が、これまであまり馴染みのない言葉で洞察溢れる形で説明がなされていることをすぐさま読み取った。正直なところ、学術機関において哲学的なトレーニングを正規に受けたことのない私にとって、本書を読み進めるのは一筋縄ではいかないが、一日に一章か二章を読むペースで読み進め、エルギン教授との面会までには少なくとも二回は読んでおこうと思う。

ボストン訪問、そしてHGSEでのコースの聴講と教授陣との面会が今からとても楽しみだ。フローニンゲン:2018/9/7(金)18:28

#### No.1303: The Running Night Sky

I finished my today's work. I'll edit my previous journals before going to bed. Looking at the outside from the window, it looks as if the night sky were running. Groningen, 20:56, Tuesday, 10/9/2018

---

### 3091. 内的感覚と心象イメージ

早朝に降っていた雨は昼前には止み、午後は秋晴れの空が広がっていた。その時間は辺りがとても静かに感じられ、午後の静寂なひと時を味わっていた。

先ほどまで雨が止んでいたのだが、つい今しがた天気雨が降り始めた。とても綺麗だ。

黄金色に輝く空を背景に、目の前には雨が地上に降り注いでいる。天気雨に打たれる街路樹もどこか嬉しそうである。天気雨をこうして眺めている私自身も確かに嬉しさの感情を感じている。

早朝の空には幾層もの異なる雲が積み重なっており、それを眺めていると、いつも以上に、自分の内的感覚が謎めいたものになっていることに気づいた。言語的な表現を超えた感覚が自分を取り巻いており、それを曲とデッサンで表現することにした。なぜか生み出された曲は、紫色の一編の詩が編まれるような感覚を想起するものが出来上がった。より具体的には、完成したその曲を聴いてみると、紫色の曲線と、幾分濃い青色の小さな円がいくつか知覚された。

それらの曲線にせよ円にせよ、そして紫や青といった色にせよ、それらはその時の私の内的感覚の動きと心象イメージに対応している。自分の内的感覚の動きと心象イメージを観察すればするほどに、その不思議な働きに驚かされる。

知的な理解を超えた現象が常に自分の中に起こっていることに気づく。それらの現象が持つ意味を頭の中だけで理解しようと思ってもほぼ不可能であり、それを形にしてみても初めて、新たな気づきや発見がもたらされる。一方で、それを形にしてみても、知的理解を超えた未知な要素が多分に残っていることは紛れもない事実だろう。しかし私は、形にしてみても初めて開ける世界の存在に気づいてしまったがゆえに、これからも内的感覚や心象イメージを形にし続けて行こう。

デッサンに関しても同様に、形になるものは自分の内的感覚の動きや心象イメージに対応している。描かれる絵は、まさに内的感覚の動きが一つのまとまった形になり、それが心象イメージとして知覚されたものなのだと思う。

---

先ほども過去に描いてきた一連のデッサンを見返してみたところ、その多様さには随分と驚かされた。毎日異なる内的感覚や心象イメージが浮かんで消えていることを知る。今後は、形なって生み出されたものを貫く主題は何か、どのようなパターンが見出され、それは何かからもたらされているのかを考察してみたいと思う。

日記を書き留めていると、天気雨が止んだ。いつの間にか雨雲もどこかに消え去っており、今は夕日が燦然と輝いている。

これから入浴をし、夕食を摂ってから、就寝前の時間を再び仕事に充てたいと思う。フローニンゲン：  
2018/9/7(金)18:42

### 3092. 心身の大きな調整

昨夜から今朝にかけて、随分と睡眠を摂っていた。昨夜はいつもと同じように午後十時に就寝し、すぐに眠りにつくことができたのだが、目を覚ました時には朝の七時であり、そこですぐに起き上がることをせずに二度寝をすると、気づけば八時近くになっていた。

昨夜は特に疲労感を覚えていたわけではなく、一日中書斎の中で仕事をしていただけなのだが、何か心身の調整が必要だったのかもしれない。起床した時刻が八時に近づいており、それは普段に比べてあまりにも遅かったこともあり、最初はサマータイムが終わったのかと思ったが、サマータイムは十月末まで続く。北欧旅行から戻ってきて最初の週末であり、同時に季節が秋に完全に入ったかのようなため、このタイミングで心身の大きな調整が行われたのかもしれない。

十分な睡眠を取ったこともあり、今日はこれから気力に満ちた一日を過ごせるだろう。幸いにして外は晴れており、穏やかな風が流れている。紅葉の始まった街路樹の葉が緩やかに風に揺られている。

今日は良い天気であるから、昼食前に近所のスーパーに散歩がてら買い物に行こうと思う。午後からは一件ほどオンラインミーティングがあり、協働執筆中の書籍について話し合う。現在協働執筆中の二冊の書籍は、どちらも共にもう直ぐ完成しそうである。一方は、全体の監修とコラムの執筆、もう一つは全体の監修と対談文章が掲載される予定である。

---

そしてもう一つ、まだ動き始めていないが、翻訳書に対する監訳の話もある。そちらは秋以降に動き始めるだろう。書籍の出版に加えて、その他の協働プロジェクトを加えれば、様々な仕事に従事していることがわかる。このようにして色々な方と協働をし、緩やかに仕事を進めていければと思う。

今日はこれから、過去に作った曲の編集をし、バッハに範を求めて一曲作る。編集の際にはデッサンを欠かさず行い、曲によって喚起される内的感覚を形にし、形にしたものからフィードバックを得て、新たな感覚を作り出していく。

昨日はバッハの曲を参考にすることはなかった。その代わりに、テレマンとベートーヴェンに範を求めていた。今日は再びバッハに戻ってきて、四声のコラールを参考にしようと思う。ここでの主題は、ハーモニーの学習として設定した方が良さそうだ。惰性で曲を作っていくのではなく、毎回の曲には何らかの課題意識を持たせたい。

特にここ最近ではハーモニーに関心を持っているため、ハーモニーの技術を少しでも高められるような意識を持って曲を参考にしていく。出来上がった曲のハーモニーの特徴と、その曲によって喚起されたデッサンの特徴を比較してみると、面白いことがわかりそうである。とりわけ、ハーモニーごとの色や形がより明らかになってくるのではないかと思う。とにかく自分の身体感覚を通じて、ハーモニーを理解していく。

当然ながら補足的に理論書を読んでいくが、何よりもハーモニーを生み出す体験そのものを豊かにしていくことが大切だ。今日からはよりいっそう、一つ一つの曲に対して課題意識を明確に持ち、新たな発見を一つでも見出していくように意識する。そして発見されたものをできるだけ日記に書き留めていくようにしたい。フローニンゲン:2018/9/8(土)08:42

### 3093. 関心を持ったリスニング

今日は午前中に作曲実践のみならず、TOEFL対策を行っていく。GRE試験に向けた対策も、そのプロセスを大いに楽しんでいたが、TOEFLに向けた学習も、そのプロセスが楽しいものになりつつある。特にリスニングセクションの問題を解いていると、普段あまり触れることのない学問分野の話を聞くことができ、純粹に新たな知的発見がある。特に生物学や天文学といった分野は、自分にとっ

---

てあまり馴染みがなく、これまでは試験中にそうした問題が出ると、少しばかり身構えてしまうことがあったが、今は逆に、そうした分野の話題を聞くことが楽しみになりつつある。

こうした意識の転換が徐々に起こっているためか、リスニングの問題文に関心を持って聞くことができつつあることは望ましいように思う。TOEFLのリスニングの講義形式の問題文は比較的長く、それを集中して最初から最後まで聞くためには、もちろんメモを取るということは非常に効果的だが、何にも増して、その問題文に関心を持っているかどうか重要だろう。

問題文の内容に純粹に関心を示すことができれば、話の次が知りたくなり、展開されていく話の中から積極的に情報を引き出そうとする意識が生まれる。これによって、随分と把握できる情報の質と量が増えるのではないかと思う。実際にそうした意識が強ければ強いほど、間違える問題数は減ることがわかった。昨日、リスニングの模擬試験を一セット解いたところ、間違える問題を限りなく抑えることができたのもそのためだろう。

とはいえ、まだ最初から最後まで完全に問題文に集中できていないこともあるため、そうしたことが数問の間違えを誘発しているようだ。リスニングの問題文を聞いている時にはより関心を持ち、さらにはメモを取る工夫をさらにしていこうと思う。そして、ケアレスミスのパターンをより明確にし、仮に完全に聞き逃した箇所が問題で問われた時には、話の要点から考えて選択肢を絞り、勘で回答する際の正解率を少しでも高めていく。そのようなことを意識して今日も問題を一セットほど解きたいと思う。

リスニングの対策に加え、今日もまたスピーキングセクションの対策を行っていく。今回改めてスピーキングセクションの評価ポイントを確認してみたところ、これまでの自分は随分と評価ポイントを無視した形で問題に解答していたのだということに気づかされた。特に、できるだけ細かな具体例を盛り込み、話を膨らませていくというポイントがこれまでの自分には欠落していたようだ。どうしてもいくつもの観点や要素を話の中に盛り込もうとする意識がこれまであり、それが逆に一つ一つの観点や要素の説明を不十分なものにしてしまっていたようだ。

今日はスピーキングセクションの設問5と6にまずは焦点を当てて対策を行い、その後、模擬試験の問題を一セットほど解きたいと思う。明日からも、六つの問題群のうち、二つの問題の対策を念入り

---

に行い、それに加えて模擬試験を一セットほど解くということを行ってほしいと思う。ちょうど来週の今日に本番があるが、ここから一週間十分な対策をし、本番で納得のいく結果が出せるようにしたい。  
フローニンゲン:2018/9/8(土)09:00

### 3094. 秋の到来を感じながら思うこと

時刻は午後三時を迎えた。先ほど、現在協働執筆中の書籍について、協働執筆者の方とオンラインミーティングを行った。いよいよ本書の執筆も残り二章となり、佳境に入った。残りの二つの章でどのようなことを盛り込んでいくのかを中心に、一時間半ほどミーティングを行った。この調子で執筆を進めていけば、年内か年明けには書籍を出版できそうである。本書の完成が待ち遠しい。

起床直後に感じていたように、今朝からすっかりと秋の気温になった。実際には随分と以前から涼しい日が続いていたのだが、今日からはぐっと気温が冷え込んだように思う。道行く人たちの格好を見ても、ジャケットを羽織っている人たちの姿を多く見かける。フローニンゲンに漂う秋の様相を見るにつけ、秋は何か深まっていく季節なのだと感じる。

それは外側の世界だけではなく、内側の世界における深まりでもある。街路樹の葉も見る見るうちに紅葉しており、秋の到来を強く感じる。

今日は幾分風があり、さざ波のような風がフローニンゲンの街を吹き抜けている。秋の風が吹けば吹くほどに、街路樹は赤味を増していくかのようだ。

今日はこれから、昨日から読み始めたキャサリン・エルギン教授の“True Enough (2017)”の続きを読み進めていく。昨日は一章を読み進め、本書が自分の新たな探究項目と密接に関係していることがわかり、嬉々とした気持ちで本書と向き合っていた。ただし、本書は自分にとって難解であることに変わりはないため、今日もまたゆっくりと続きを読み進めていきたい。一読しただけで全てを理解する必要などなく、二読、三読をして徐々に理解を深めていく。幸いにも、今月末にハーバード大学教育大学院を訪れる際に、エルギン教授のクラスに参加し、その後に対一での面会の機会をいただけたので、その際に本書の内容について質問をしたいと思う。そうした質問ができるほどに本書を繰り返し読んでいきたい。

---

ここ最近、教育哲学、特に芸術教育と霊性教育が現代社会で持つ意義と価値に関するテーマで博士課程に進学するのも悪いことではないと思い始めている。博士課程に進学するためのあと一押しが見つけれられていないが、そのテーマであれば四年や五年をかけて一つの論文にまとめていくに資するのではないかと思い始めている。

博士課程に進学することになれば、これまで以上に厳しい知的鍛錬がそこでなされるに違いない。依然として、学術世界で語られることと語られないことに関する境界線の問題が私の内側にあり、その問題との折り合いがつけば、上記のテーマに関して博士課程に進学したいという思いが湧いてくる。

今の私には真の師が必要であり、探究を共にする仲間とコミュニティーが必要に思える。そうした存在や場所との運命的な出会いがあれば、私は迷わず博士課程に進むだろう。

博士論文は必ず英語で執筆することになるが、その内容をいつか日本語の書籍にまとめたいという考えもある。内容を噛み砕き、論文の体裁ではなく、読みやすい一般書の形で自分が探究してきた知見を共有することができればと思う。それは自分に与えられた一つの役割だということが最近になって見えてきた。博士論文の内容を噛み砕いた書籍、そして論文の進捗に応じてそれを日本語の日記に書き留めておくことにも何かしらの意義があるかもしれない。

つい先日までは学術世界との距離を確保しようと思っていたのだが、やはり私は博士課程に進学して一つのテーマをゆっくりと探究していくということを行いたいようであり、同時に自分を越えた何か自分がそこに向かわせているのを知る。フローニンゲン:2018/9/8(土) 15:21

#### No.1304: The Beginning of a Peaceful Day

Feeling the beginning of a peaceful day, I'll devote myself to my lifework today, too. Fortunately, today will be sunny all day long. Groningen, 08:30, Wednesday, 10/10/2018

#### 3095. 景色からの支援:身体と精神

時刻は午後七時半に近づきつつある。今日は雲が現れたり、雲が消えたりするような不安定な天候だった。夕方には一時的に夕日を眺めることができ、雲間から差し込む太陽の光の暖かさとその輝

---

---

きが印象に残っている。今この瞬間は、うっすらとした雲が空を覆っており、それは雨を降らせるかもしれない。確かに今日の天気は優れたものではなかったが、書斎の窓から見える景色に後押しされる形で自分の取り組みに従事できたように思う。ヘルシンキから北に40kmほどのところにあるアイノラのシベリウスの邸宅の様子を思い出す。

シベリウスは、毎日書斎の窓越しからアイノラを眺めていた。偶然にもシベリウスの書斎の机も窓の方に面しており、シベリウスは作曲をしながら外の景色を眺めていたのだろうと想像させる。シベリウスも自然の力を借りながら自らの取り組みに従事していたのだろう。

今日は夕方一つ面白い出来事があった。突然書斎の窓にハトがぶつかり、少し混乱をした後にすぐさま飛び去っていくという光景を目の当たりにした。スズメよりも体の大きいハトであるから、窓ガラスにぶつかった衝撃は強く、室内にいる私は一瞬驚いた。ハトも私も驚きながら、一瞬お互いに目が合ったような瞬間があった。窓ガラスにぶつかった衝撃で薄い羽根が取れてしまったらしく、その破片が窓ガラス付近の蜘蛛の巣に引っかかっている。今蜘蛛の巣に引っかかっているその羽根は、夜の風に吹かれてたなびいている。

今日は午前中と午後に分けて、TOEFLのスピーキングセクションの対策を行った。リスニングのセクションと同様に、その学習プロセスにはこれまで見落としていた学びがあり、出題される問題を徐々に楽しむことができるようになってきている。とはいえ、設問1と2に関しては、即興的により詳細な具体例をわかりやすく紹介できるようにする必要があったり、設問4と6については、読み上げられる講義文をもう少しうまく要約していきたいと思う。特に、自分に馴染みのない分野の場合、どれだけ情報を拾い、それをどれだけ的確にまとめていけるかの訓練がより必要だ。

これまで私は社会科学を主に学んできたため、やはり自然科学系の講義文を即座に把握していくことに課題があるようだ。これはすぐに解決されるような問題ではないが、必要な情報を正しく聞き取り、それを正しく表現するように心がけていく。その意識を持って明日の対策を行う。

昨日、リスニングの問題を聞いていると、行動主義心理学の始祖であるジョン・ワトソンの功績が紹介されていた。問題文を聞きながら、実はワトソンは随分と興味深い研究をしていたのだということを改めて感じた。とりわけ、思考と身体の関係、特にワトソンは思考と筋肉の関係について研究を進めて



---

いた。ワトソンに続き、ウィリアム・ジェームズも思考と身体の関係に着目しており、二人の研究から改めて、思考と身体結びつきについて考えさせられていた。

卑近な話かもしれないが、食事や運動が身体に与える影響は計り知れず、食事や運動によって形成された身体は私たちの精神に大きな影響を与える。健全な身体を育むための食事と運動、そして健全な精神を育むために、精神にいかなる情報を与え、精神にとっての運動である思考をいかに行っていくかが大切であると改めて肝に銘じる。フローニンゲン:2018/9/8(土) 15:21

#### No.1305: Membranes of Reality

While making coffee minutes ago, I had a feeling that I transcended one of the membranes consisting of the reality. I'll think about the phenomenological and structural meaning of the phenomenon. Groningen, 08:44, Wednesday, 10/10/2018

#### 3096. 固有の発達特性・学習特性

今朝は七時前に起床し、七時半頃からゆっくりと一日の活動を始めた。今朝も改めて、早朝の気温が随分と下がっていることに気づいた。もう最高気温は20度以下になり、最低気温は10度ほどになりつつある。まだ九月が始まって間もないのだが、そのような肌寒さを感じさせる気候になった。

今日も早朝の空には雲がかかっており、朝日を見ることはできない。今日は一日を通して曇りのようだ。

日記の執筆を通して日々を振り返っていくということ、そして一つ一つの実践や学びを振り返っていくことが無意識的な習慣になった。こうした習慣を通じて、自分が日々をいかように生きているのか、さらには自分の精神の働かせ方や学びの特性などが見えてくる。現代人の多くは他人に無関心なだけでなく、自分にも無関心なのではないかと思われる。それは端的には、多くの人が自分の学びの特性について理解していないことに現れている。

ここ最近よく思うのは、発達科学や学習科学の知見を学べば学ぶほど、自分の探究活動が豊かになっているということであり、一方で、それだけでは不十分だということである。そうした科学的な知識は、基本的には一般化された知として共有されている。それらの科学領域における知は、科学的

---

な実験などを通して、広く多くの人たちや状況に当てはまるのかが確認された後に共有されていく。もちろん、ケーススタディなどのように個別性に着目した研究手法があることは確かだが、そうした手法においても、結論は一般化の方向に向かっていく傾向があるのは確かだろう。

発達や学習に関する科学的な知を得ていくということは、自己や他者の発達を実現していく上で極めて重要だが、それだけでは不十分である。とりわけ、自己(あるいは特定の他者)の発達を考えた場合、固有の発達特性と発達プロセスを自ら理解していく必要がある。要するに、科学的な知にすらないような個別的な知を自ら獲得していく必要があるということである。さもないと、真に自分を深めてくれるような学びを実現するのは難しいだろう。

だが、自分に固有の発達特性と発達プロセスを自ら観察し、それらを掴んで行こうとしている人が一体どれだけいるのだろうか。ここで述べている個別性というのは、もはやタイプ論の範疇を超えたものである。タイプ論ですら一般化された知識である。自分自身の発達特性や学習特性をタイプ論を超えて把握していくことの意味を最近強く感じる。それだけ私たち一人一人はユニークな存在であり、発達や学びの形は多様なのだ。

一にも二にも自己観察を続けていくことの意義はそこにあるだろう。むしろ、それをしなければ、自分自身の発達特性や学習特性を真に理解することなどできない。できることは、一般化された知に依存し続けることか、はたまた自分自身の発達特性や学習特性に無知のまま生涯を過ごしていくかだろう。

自己を観察する上で、やはり日記の持つ意義を強く感じる。日々自分の内側に生み出される差異に気づき、新たな差異を生み出していくこと。いや、自分固有の差異に気づくだけでなく、それがどれほど固有な形で生み出されていくのかに気づくことも大切だ。

差異は日々の微細な変化と言い換えることができる。変化は認識の光が与えられて初めて真の変化になる。変化そのものは多分に生物的・生命的であるため、生物・生命の成長に日々の栄養が必要のように、私たちの変化も認識という栄養が必要になる。変化には面白い特徴があり、変化に気づけば気づくほど、その変化は自発的に育っていく運動を見せる。これは複雑性科学の言葉で言えば、「自己組織化(self-organization)」という現象である。そうした自己組織化を導いていくのが日々

---

の振り返りであり、その最良の手段はやはり日記の執筆であるように思えてならない。フローニンゲン:2018/9/9(日)07:53

### No.1306: A Dance of Autumn

Today is peaceful as usual, and at the same time, it has a convivial atmosphere that encourages me to dance. Letting go of myself to a dance of autumn, I'll fully engage in my academic and creative work. Groningen, 09:25, Wednesday, 10/10/2018

### 3097. 変化の根源を捉え、変化を生み出す日記

九月に入ってまだ間もないが、本当に朝が冷え込み始めた。起床してすぐに入れた温かいお茶を飲みながら、今この日記を書いている。また、つい先ほど今日一日分のコーヒーを作り始め、コーヒーメーカーが一生懸命に仕事をしている。一日に飲むコーヒーの量を減らし、午前と午後一杯ずつコーヒーを飲むことが習慣になった。この新たな習慣がもたらす効果についてはまだよくわからない。

起床時に見えていた雲とは少しばかり種類の違う雲が上空に見える。今は少し晴れ間が顔を覗かせており、一日中曇りだという予報は少し外れるかもしれない。

日曜日が静かに始まり、静かに流れていく。私が現在住んでいる場所の周りは本当に静かだ。確かに住宅地の一角に住んでいることは確かだが、近隣住民がとても静かに生活を営んでいる。この静けさは、秋の深まり、そして冬の到来と共により深まっていくように思える。

先ほど日記について書き留めていたが、日記の執筆には他の実践とは少しばかり異なる要素がやはり存在しているようだ。自分が行っている他の実践を取り上げてみると、例えばヨガや瞑想実践などがあり、それらは変化を生み出すことを意図的・非意図的な目的に掲げながらなされる。

ヨガや瞑想においては心身を整えることが意図的・非意図的な目的として掲げられていると言えるだろう。その他の実践について挙げればきりが無いが、こうした実践は変化を生み出すことを目的になされているように思えてくる。一方で、日記を執筆するというのは変化を生み出すために行われ

---

るという側面のみならず、変化そのものに気づいていくという要素が色濃く存在している。先ほどの日記の話で言えば、まさに振り返りの要素が強いのが日記の執筆だろう。

確かに、ヨガや瞑想をしながら振り返りをする 것도可能だが、それはそれらの実践が本来目指すことではないだろう。気づきの瞑想ですら、自分の内側に起こっていることに意識を当てることはするが、変化を生み出す根源にまで立ち返って変化そのものを捉えていくことは目的にされないはずである。そうしたことを考えてみると、日記の執筆というのはますますユニークな実践だということが見えてくる。それは変化の根源にまで立ち返って変化そのものに気づかせてくれるものでありながら、同時に新たな変化を生み出すものでもある。

日々の小さな変化をないがしろにせず、それらに認識の光を与え、変化そのものを育てていくということを行っていきたい。その実現に向けて、今日も普段と変わりなく、日々の様々な出来事を通じて考えたこと、感じたことを日記に書き綴っていくことになるだろう。

今、朝日が顔を覗かせ始めた。光がフローニンゲンの街に降り注いでいる。フローニンゲン:2018/9/9(日)08:12

### An Autumn Geometric Pattern

Once autumn came, I noticed that geometric patterns occurring inside my psyche dynamically varied. That may be because a function in the interior and exterior reality to generate patterns is interdependent. Groningen, 18:06, Wednesday, 10/10/2018

### 3098. 忘却の河と無邪気な死の影

時刻は午後の三時半を迎えた。早朝に引き続き、空の大部分は雲に覆われているが、時折陽が差し込んでくる。

今朝はとても肌寒く、とても静かであった。今もその静けさは変わらないが、寒さに関しては幾分暖かくなっている。つい先ほどまで部屋の中でも長袖を着ていなければならなかったが、今は再び半袖で過ごしている。

---

午前中、過去に作った曲を編集していると、いくつか興味深い感覚に陥った。一つには、私たちの日々は、もしかすると忘却の河の中で営まれていると言えるかもしれない、という気づきをもたらす感覚である。

つい先ほども、遙か昔の幼少時代の記憶が突然蘇り、私はその記憶の中にいた。記憶そのものがいかに喜びに満ちたものであったとしても、その記憶の中に浸り、そこから出てくるときには何かもの哀しさのような感覚になる。一方で、そうした記憶が自分の内側に依然として残っているということ、さらにはそうした記憶が今の自己を形成することに結びついているのだと思うと、もの哀しさ以外にもどこか感動すら引き起こすような気持ちになる。

私たちは日々諸々のことを忘れていくが、決して忘れられずに残っている記憶というものがある。それは私たちの存在の保全にとって重要であるばかりか、私たちの存在を深めることにおいても重要なのではないだろうか。

今日もこのようにして一日を生きているということが、将来の記憶の一つになるだろう。今の体験や感覚が将来の記憶として形作られていくことを思うと、やはりたまらない気持ちになる。この気持ちについては他にまだうまく説明ができない。

もう一つ、自分の内側に無邪気な死の影が駆け抜けていくのを感じた。これも午前中に曲を編集している時に体験していたことである。その死の影は純粹無垢であり、表面上はとても陽気であった。その影が深層に持つ部分を探ろうとすると、その影は私を深層に入れてくれはしなかった。そのため、表層的な意味以上のことは何もわからないまま、その感覚が過ぎ去っていった。

先日、就寝前に、ふと自分がこの世に生まれてからまだ30万時間未満しか経っていないことを知り、愉快的気持ちになった。同時に、30万時間近く生きてきたことにどこか感慨深い思いになった。

欧州での生活を始めてから、生の有限性に対する意識が鋭敏なものになっている。そうした意識が鋭敏になればなるほどに、自分の思考や感覚までもが鋭敏なものになりつつあるように思う。

死という現象を取り巻く諸々の事柄があまりに錯綜としており、死の本質に迫っていくことが極めて難しい。複雑に絡みつく糸のような諸事象を紐解いていく試みに少しずつ従事する必要性をこのと

---

ころ感じる。おそらくそれをしなければ、自らの生を生きることはできないだろうし、それを生き切ることなどできはしないだろう。

穏やかな西日が街路樹に降り注ぎ、街路樹は緩やかな風に揺れている。日曜日の午後がゆっくりと進行している。フローニンゲン:2018/9/9(日)15:55

### 3099. 時の流れ:芸術教育と霊性教育

黄金色の輝きを放つ夕日がフローニンゲンの空に静かに佇んでいる。夕日の光がとても眩しく、それを直視することはできない。本当の光とは直視することができないものなのかもしれない、ということはこの夕日が教えてくれているかのようだ。私たちにとって本当に大切なことを見出すのは非常に難しい。まさに、今夕方の空に輝いている夕日を直視することができないぐらいにそれは難しいかもしれない。しかし、私たちは自分にとって本当に大切なことを直視していく必要がある。

目も当てられないほどの光のような真実を自分の内側に見出して初めて、日々が輝きに満ちたものになるにちがいない。

今日は一日を通してとても肌寒かった。木枯らしが吹く季節が徐々に近づいてきているのを感じるほどであった。そんな気持ちと共に、秋のある日曜日が過ぎていった。

「今日がこんなにも早く終わりに向かっていくとは思っていなかった」という思い。それは一日の終わりに毎日思うことである。

欧州での三年目の生活が始まって一ヶ月が過ぎたが、一日一日が過ぎ去っていく速度は速い。早朝から一日の終わりにかけて自分のライフワークに取り組んでいる時は、あたかも時が止まっているかのような感覚なのだが、ふと一日の終わりに差し掛かると、今日という一日があつという間に過ぎ去っていったことに気づかされる。人生は止まった流れの中で営まれ、ふとした瞬間に振り返ってみると、それがとてつもない速さで流れていたことに気づかされるかのようだ。

先ほど夕食を摂り終え、これからもう少し仕事を進めていく。今日は午後にふと、教育哲学についての理解を深めていくためには、教育に関心を持つ幅広い人たちとの対話が一番有益かもしれない、

---

ということも思っていた。確かに今はとにかく修練の時期であるため、教育哲学に関する探究も書籍や論文を通じたものになるのは仕方ない。しかし、書籍や論文では得られないような、生きた問いが教育に関心を持つ人たちとの対話の中で共有され、それがまた自分の探究を深めていくことにつながることを確信している。

教育哲学全般について、これからより本格的に探究を進めていきたい、それこそ、英語空間に存在する全書籍と全論文を読みたいような気分だ。分野に関しては、広く教育哲学について探究をしていきたいが、最初は芸術教育や霊性教育の文脈に絞って探究を深めていくのが賢明だろう。とにもかくにも今の私を捉えてやまないのは、それらの二つの教育領域なのだから、それらに関する教育哲学を学んでいき、徐々に領域を拡大していくようにしたい。

ルドルフ・シュタイナー、ジッドゥ・クリシュナムルティ、ハワード・ガードナー、キャサリン・エルギンらが執筆している教育哲学書を中心に、自らの関心に従って旺盛な読書をこれから行っていく。

来週の土曜日にTOEFLを受験し終えたら、そこからは読書に充てる時間がさらに確保されるだろう。少しずついい。少しずつ、自分に与えられた役割を日々全うしていく。

読むこと、書くこと、作ること。そして、芸術教育と霊性教育。フローニンゲン:2018/9/9(日)19:54

### 3100. 秋の朝に見た夢

日曜日が終わり、今日から新たな週となった。昨夜はいつものように午後十時に就寝したにもかかわらず、今朝は七時過ぎに起床した。

やはり新たな季節の到来に合わせて、自分の中で何らかの調整が起こっていることがわかる。ある季節から新たな季節に向かっていくための準備を行い、新たな季節の中で十分に活動できるための心身の調整が起こっている。

時計の針が八時を指した。書斎の窓から外を眺めてみると、優しい朝日が地上に降り注いでいる。風もほとんどなく、とても穏やかな雰囲気だ。街路樹の紅葉も進んでおり、着実に新たな季節が進行しているのがわかる。

---

今朝方、印象的な夢を見ていた。夢の中で私は、大学時代の友人や先輩と共に、ある旅館に宿泊していた。

この旅館は和風というよりも洋風であり、旅館の内装や置かれている物がそうした雰囲気私に与えた。ちょうど私たちが観光から戻ってきたときには、もう夜だった。

一階には食堂があるのだが、当然この夜の時間帯には閉まっていた。カーテンのようなもので閉ざされた食堂の前に立つと、そこに一枚の張り紙を見つけた。張り紙には、「朝の四時、五時、六時、六時半にわたって朝食が出される」ということが書かれていた。今自分たちが旅館に戻ってきた時刻は随分と遅いから、もしかすると、朝の四時に朝食を作りに来る従業員の人たちがそろそろやってくるかもしれないと思った。とりあえず私たちは、朝の六時半に朝食を食べる計画を立てた。

食堂の横には和室があり、畳の上にミネラルウォーターのタンクが二つ置かれていた。先輩が一つのタンクから水を汲み、自室に持って行こうとしていた。

先輩がタンクから水を出し始めたのに合わせて、突然反対側のタンクから水が溢れ出し始めた。私は持っていたペットボトルに溢れ出してくる水を入れて、タンクから水が畳に落ちないようにしようとしていた。しかし、予想以上に水が溢れ出し始め、手持ちのペットボトルには収まりきれないぐらいの量であったため、結局畳に水がこぼれ始めた。しばらくするとタンクからの水漏れは収まり、畳を見ると、随分と水浸しになっていた。

先輩は困った表情を見せながらも、持っていた布切れで畳の水を拭き取り始めた。私も近くにあった布で水を拭き取り始め、黙って黙々と拭き取るのではなく、先輩と最近の仕事の様子を話していた。そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私は小中学校時代の友人が運転する車の中にいた。私は後部座席に座っており、助手席には高校時代の英語の先生が座っていた。

私たちは友人の自宅に向かっているようであったが、窓から見える景色は見慣れないものだった。そうしたこともあってか、友人も道に迷い始めたようであり、運転中にもかかわらず、携帯で地図を確認し始めた。



---

ちょうど目の前にT字路が見えた時、私は左折か右折をするのだろうと思っていた。T字路の先は道路ではなく、傾斜の激しい山肌であった。

T字路が目と鼻の先に迫ってきた時、友人はまだ携帯で地図を確認しており、どちらに曲がるかの判断ができていないようだった。というよりも、友人はT字路の存在に気づいておらず、道が直線に進んでいくものと思い込んでいるようだった。

私が「危ない！」と叫んだ時にはもう手遅れであり、車は傾斜の激しい山肌に乗り上げていった。その傾斜があまりにも激しかったため、車はある地点で静止し、そこからT字路の道まで滑り落ちていった。幸いにも、T字路に他の車がやってこなかったため、私たちは何一つ怪我をすることなく済んだ。そこでようやく助手席に座っていた先生が口を開いた。

**高校時代の英語教師:**「洋平は、車の中で終始私の眼を見なかったが、それはどうしてなんだ？」

そのような質問を私にしてきた。高校時代、その先生とはとても親しい仲であったが、なぜか車の中では目を合わせることはなかった。先生の質問に対して何か答えようとしたところで夢から覚めた。

フローニンゲン:2018/9/10(月)08:21